

蓄電池併設型オンサイト PPA による再生可能エネルギーの活用 ～京葉 PD センター クール・ネット東京補助金 採択～

センコー株式会社(本社:大阪市北区、社長:杉本 健司、以下「センコー」)は、「京葉 PD センター」(千葉県市原市)に太陽光パネルと蓄電池を設置し、再生可能エネルギーを最大限活用する太陽光自家消費PPAモデル※1を6月28日から開始しています。センコーでの蓄電池活用は初めての取り組みとなります。



(京葉 PD センター 外観)

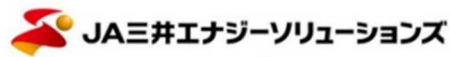
今回、屋根に設置した太陽光発電では、京葉 PD センターの日中の稼働時間帯において、必要な総電力の約50%を賄うことができます。また、早朝や休日など稼働しない時間帯や発電量が多い時期など、施設で使いきれない余剰電力量を併設した産業用蓄電池に貯め、電力使用量に応じて放電を行うことが可能になります。

また、クール・ネット東京(東京都地球温暖化防止活動推進センター)が公募する「地産地消型再エネ増強プロジェクト」に採択される条件として、屋上に設置した太陽光パネルで発電した電力の環境価値※2について、PPA 事業会社を仲介して3分の1は京葉 PD センターで使用する倉庫や事務所の電力に充当し、残りの3分の2については潮見 SIF ビル(東京都江東区)で使用する事務所や EV 社用車の電力に充当することで、補助金を活用しております。

センコーでは、今後も太陽光発電設備や蓄電池の設置等、様々な取り組みを検討・推進し、再生可能エネルギー比率を高め、脱炭素化社会の実現に寄与していきたいと考えています。

<設備概要>

- ・太陽光パネル(649.920kW)、蓄電池システム(193.5kWh)



太陽光発電および蓄電池を設置
再エネ電力供給

太陽光発電の使用量に
応じた料金を負担



保守・遠隔監視
蓄電池制御



不足分を
系統電力から供給



(契約中の電力会社)



センコー(株) 京葉PDセンターにて
発電量の3分の1の環境価値を充当

潮見SIFビルにて
発電量の3分の2の環境価値を充当



(潮見SIFビル)

- ※1 太陽光自家消費PPAモデル: 施設所有者が無償提供する屋根などのスペースに、発電設備の所有・管理を行う会社 (PPA事業者)が設置した設備で発電した電力を施設所有者へ有償提供すること
- ※2 再生可能エネルギーによる電気のうち、「電気や熱そのものの価値」の他に、二酸化炭素を排出しないという付加価値

以上